

授業科目名 (英文名)	(特講) Summer Intensive Program (経営学部・専門科目) (Summer Intensive Program)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	1
担当教員	清水 隆則 山口 隆英	所属	会計研究科
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義の目的 英語を使うグローバルな環境を想定し、効果的なプレゼンテーションとは何かを理解し、実践をすることでスキルアップを図る。</p> <p>講義の目標 他者に効果的に自分の実績やチームの考えを英語で伝えることができるようになる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>・講義内容 英語によるプレゼンテーションに関する講義内容を理解し、個人およびグループでプレゼンテーションの実演およびフィードバックからの改善を行う。</p> <p>・授業計画</p> <p>1回～5回(1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語によるプレゼンテーション～個人 (1) 英語でのアイスブレイク 面接などで自らの実績を伝える際に効果的なフレームワークを紹介 英語によるプレゼンテーション作成・実演、および講師による評価 2日目の課題を説明 <p>6回～10回(2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語によるプレゼンテーション～グループ (2) 課題に対するの分析：グループによるプレゼンテーション作成・実演 および講師による評価 効果的なプレゼンテーションの手法を紹介 3日目のプレゼンテーションの準備 <p>11回～15回(3日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語によるプレゼンテーション～グループ (3) 課題を解決するための提案：グループによる最終プレゼンテーション 作成・実演および講師・各グループによる評価 グローバルプレゼンテーションの講義 リアクションレポート提出 		
テキスト	授業中に資料と配布する。		
参考文献	適宜指示する		
成績評価の基準・方法	<p>全ての課題に取り組み、個人及びグループでの英語によるプレゼンテーションを実践した者に単位を授与する。</p> <p>下記の要素に対して以下の配分をし、総合的に評価し、SからCまでの成績を与える。</p> <p>プレゼンテーションを主体とした実演でのアウトプット 60%</p> <p>リアクションレポートから判断する講義・フィードバックに対する理解度 30%</p> <p>授業への参加態度(講義での質問など) 10%</p> <p>S：理解度が高く、実演において著しく貢献した</p> <p>A：理解度が高く、実演において貢献した</p> <p>B：理解度は十分であったが、実演における貢献が限られていた</p> <p>C：理解度が十分と言えず、実演においても貢献が低かった</p>		
履修上の注意・履修要件	3日間を通しての参加を前提とする。プレゼンテーションへの参加は必須とする。それぞれの課題をこなしていくにあたり、講義やフィードバックを生かして、改善を測る		

	。
実践的教育	優れた人材を輩出することで知られるグローバル企業、P&Gで33年間の商品開発、採用、人材育成などの実務経験を持つ講師が、より本質に迫った英語によるプレゼンテーションの能力育成を行う。講義だけではなく、個人及びグループによるプレゼンテーションに対してフィードバックを与えることで、実践的な力を養っていく。グローバル企業への就職に備えての面接などにも役に立つ内容も組み込んでいる。
備考	